福島イノベーション・コースト構想推進機構
2026年８月の主な取組

2026年9月１０日

公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構

【伝承館】パネル展原発事故15年 福島「帰れない」家 帰還困難区域の今

福島イノベ機構

帰還困難区域に取り残された家屋に一時帰宅する原発事故避難者の写真やルポタージュを展示するほか、伝承館の展示パネルや時層地図、現物資料を展示した。期間中の８/２（日）には、パネルで紹介した今野 実永（こんの みのぶ）氏によるトークイベントも実施した。

日　時

令和８年７月２３日（木）～８月１８日（火）
※ トークイベントは８月２日（日）

場　所

桜川市生涯学習センター　さくらす
（茨城県桜川市東桜川一丁目２１番１号）

参加人数

パネル展：１７，３４２名（会期中の来館者数）
トークイベント：約５０名（オンライン含む）

主　催

主催：福島大学地域未来デザインセンター
　　相双地域支援サテライト
共催：（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構

【アンケートの声】
引き続き桜川市とのつながりを継続していただきたいです。震災当時小学３年だったこともあり、地震の怖さ、被災地の様子、復興の道のりを、テレビ等で目にしておりました。しかし、これまで自分が見て、思い、感じていたことがいかに浅はかであったか痛感しました。

【伝承館】中国語語り部講話、初めて実施

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の「語り部講話」を中国語で初めて実施した。
団体向けに実施している伝承館の研修プログラム「研修語り部講話」での開催。災害社会学を研究している台湾中央研究院の研究者らが聴講した。

日　時

令和８年８月１日（土）１４：３５～（４０分間）

場　所

東日本大震災・原子力災害伝承館研修室

参加人数

聴講者１０名（台湾中央研究院）

主　催

東日本大震災・原子力災害伝承館

中国広東省出身で、現在は大熊町在住の大竹英子（おおたけ・ひでこ）さんが語り部を務めた。大熊町で震災と原発事故により被災後、すぐ夫を亡くされた。目の不自由な義理の姉と一緒に、大熊から遠く離れて雪深い会津の地で避難生活を送った。苦労を重ねて大熊に戻った大竹さんは「当時、日本語の理解が十分ではなかったので、役所への申請などが大変でした。多くの方に支えられ、人の温かさに涙が出る思いでした」と振り返っていた。
語り部の後、 聴講した方から数多くの質問が出て、活発な対話の場となった。大竹さんに「台湾で大きな地震があったことを思い出しました」や、「災害後の緊急対策が印象に残りました」と感想を伝えていた。

第11回双葉郡中高生交流会　「FUTABA 1 DAY SUMMER SCHOOL」

福島イノベ機構

交流を通じ生徒たちが主体性・協働性・創造性を発揮するとともに、町村や世代の垣根をこえて双葉郡のつながりを感じられるようにすることを目的として、今年もふたば未来学園中学校・高等学校で開催されました。

日　時

令和８年８月４日（火）１０：３０～１５：３０

場　所

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

参加人数

生徒２３９人（内郡外１人）、大学生ボランティア４人
教職員９７人、関係者等２７人　　合計３６７人

実施主体

主催：福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会
共催：双葉地区教育長会、双葉郡中学校長会
　　福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校
　　福島イノベーション・コースト構想推進機構

11回目となる今回も作詞家の秋元 康さんが全体をプロデュースし、ワークショップではアートディレクター 秋山 具義さん、KAWAII LAB.総合プロデューサー 木村 ミサさん、映画監督 田中 亮さん、ツインプラネット代表取締役 矢嶋 健二さん、Wakiyaグループオーナーシェフ 脇屋 友詞さん、そしてプロダンスリーグ「D.LEAGUE」で活躍する福島県出身ダンサーのYUYAさん、ASAHIさん、KENTAROさんが講師を務め、中高生の皆さんは普段の学校生活ではできない学びを体験し、お互い共感したり認めあったりして交流を深め、つながりを感じることができました。
開校式や閉校式、それにワークショップ前に緊張をほぐすためのアイスブレイクは「ふたば生徒会連合」の生徒たちによって企画運営され、開校式では、ふたば未来学園高校の生徒から、中高生交流会での経験や進路選択について、自身の経験をもとにしたアドバイスが発表されました。先輩方のアドバイスを通して、これからの学校生活や進路について考える貴重な機会となりました。

FTC事業　ワークショップ＆交流会実施（ビジネスアイデア事業化プログラム）

福島イノベ機構

ＦＴＣビジネスアイデア事業化プログラムでは毎月１回ワークショップをいわき市と神奈川県川崎市で実施しています。
今回は「用途仮説の構築」をテーマにしたワークショップを行い、外為法や薬機法など、事業を進めるうえで注意すべき法規制についてのレクチャーも実施しました。
８月４日の川崎会場では、ワークショップ後にFTCアラムナイやメンター等との交流会も実施しました。

ワークショップの様子

日　時

令和８年８月４日（火）１３：００～１８：３０

参加人数

令和8年度採択者14名、アラムナイ4名、メンター4名、特許庁4名及び県・イノベ機構関係者５名が参加

場　所

K-NIC kawasaki-NEDO INNOVATION CENTER

主催

福島県
福島イノベーション・コースト構想推進機構

令和8年度採択者はアラムナイやメンターから元気をもらいました。

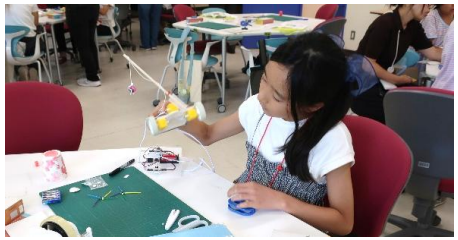
小学生ロボコン２０２６ふくしま予選会 ／ ふくしまイノベ未来講座

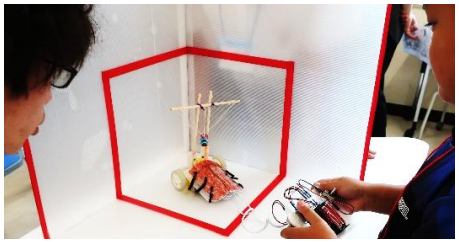
福島イノベ機構

８月８日（土）、福島工業高等専門学校で開催された「小学生ロボコン2026 ふくしま予選会」において、参加者の保護者を対象に「ふくしまイノベ未来講座」を実施した。
講座では、福島の震災からの復興の歩みを振り返るとともに、福島イノベーション・コースト構想の概要や県内で進められている取組について紹介した。実施後のアンケートでは、「福島が未来の技術を生み出す中心地になってほしい」との声が寄せられるなど、構想への理解や関心を深める機会となった。

日　時	場　所
令和８年８月８日（土）	福島工業高等専門学校
参加人数	**主　催**
参加者の保護者：２０名	福島工業高等専門学校

また、ロボコンの予選会では、植木事務局長が特別賞の審査員を務め、子どもたちのアイデアや工夫、挑戦する姿勢を審査するとともに、表彰式で特別賞を授与し講評を行った。





ふくしま予選会

※案内より

主催
福島工業高等専門学校 機械システム工学科

後援
（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構

協賛
株式会社東日本計算センター
株式会社 クフウシャ
福島国際研究教育機構（F-REI）

協力
小学生ロボコン実行委員会
（NHKエンタープライズ・科学技術館）

「働く×挑む」のリアルを体感する体験ツアー（イベント実施）

福島イノベ機構

福島イノベ機構では、イノベ地域の魅力を開発する担い手を拡大する取組の一つとして、株式会社READY SOCIALが企画した「働く×挑む」のリアルを体感する体験ツアーを実施しました。ツアーには神奈川大学女子サッカー部から70名が参加し、福島の女子サッカーチーム「FUKUSHIMA WWW.」の選手が働く職場体験や、サッカー交流などを実施しました。

開催日	イベント名
令和８年８月１２日(水)・１３日(木)	「働く×挑む」のリアルを体感する体験ツアー
場　所	**主　催**
双葉町、大熊町、浪江町	福島イノベ機構（運営：(株)READY SOCIAL)

【伝承館】来館者５０万人到達で記念式典

福島イノベ機構

伝承館は令和８（２０２６）年８月１２日（水）、来館者が５０万人に到達し、式典を行いました。

５０万人目のお客様は大阪府の清水順也さんご家族です。福島県石川町出身の妻瑠里さんと、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故後に生まれた長女、結葵（ゆずき）さん、次女、詩楓（ことか）さんと来館されました。
高村昇館長と双葉町の森隆史副町長があいさつし、ご家族に記念品を贈りました。

【記念品】
◆伝承館：伝承館ガイドブック、オリジナルアロハシャツ、防災バッグ（防災用品30点）
◆双葉町：双葉だるま、浅野撚糸タオルセット、フレックスジャパンのオーダーシャツチケット、ホテルFUTATABI　FUTABA　FUKUSHIMAのペア宿泊券

FTC事業　ミートアップイベント開催

（アクセラレーションプログラム・先導技術事業化アクセラレーションプログラム）

福島イノベ機構

本年度のアクセラレーションプログラム・先導技術事業化アクセラレーションプログラムの採択事業者と、地元自治体や金融機関、事業者等のマッチングを目的とした「ミートアップイベント」を開催しました。今回は、初の試みとしてＦＴＣアラムナイの方々にも参加していただきました。
採択事業者は、３分間ピッチの後に地元自治体などの方々がいる９つのテーブルを回って、事業内容や支援していただきたい内容などを熱心に語り、地元自治体などの方々からは提言を受けたり、ご協力の約束をいただくことができました。

日　時

令和８年８月19日（水）１３：００～１７：００

参加人数

令和8年度採択事業者16社（22名）、アラムナイ３社(4名)
経産省1名、復興庁2名、特許庁5名、金融機関12名、VC2名
自治体6名、地元企業7名、支援機関ほか12名
福島県2名、イノベ機構5名（計80名　除く運営会社）

場　所

いわき産業創造館 企画展示ホール（LATOV 6階）

主催

福島県
福島イノベーション・コースト構想推進機構

会場の風景

地元事業者の紹介

今後の展望などを語る採択事業者（手前右から2人目）
熱心に耳を傾け、質問や提案をする地元自治体などの方々

高校生連携ＰＯＰポスター作成プロジェクト

福島イノベ機構

県内の農業科･商業科に在籍する高校生が、各校の生産物や商品開発品の販売促進を目的としたＰＯＰポスター制作に取り組みます。制作活動を通して学校間の交流を深めるとともに、表現力や協働力の育成を図ることを目的としています。（全２回、今回は２回目）

日　時	場　所
令和８年８月１９日（金）１３：３０～１５：３０	郡山市男女共同参画センター
参加人数	**実施主体**
合計４０名（生徒３２名、教職員８名）	主催：福島県教育委員会 事業委託先：福島イノベーション・コースト構想推進機構

（今回の実施内容）
・前回の振り返り
・フィニッシュワークの講義
・フィニッシュワークの演習
・講評会

（販売会　９月１２日（土）予定）
実施予定の内容
・成果としてPOPポスター用いて販売会
・探究ＥＸＰＯの中で実施
・会場は郡山総合体育館
・時間は10時～15時（予定）

第２回ＰＯＰポスター作成に関する講義を実施いたしました。今回は１コマ目に講義、小松教授にアドバイスをいただきながら作成しました。小松教授に各校の席をそれぞれにまわっていただき、デザインや配置等のスキルを学びました。２コマ目はポスターの生徒発表と小松教授より講評をいただきました。なお、今回作成しているＰＯＰポスターは、９月１２日（土）に郡山市総合体育館で開催される福島県教育委員会主催「探究ＥＸＰＯ」において、成果物として展示予定です。販売会は各校に各ブースを準備いたしました。販売物はカレーパン、野菜、ドレッシング、ラーメン、どら焼き、ラスク、シフォンケーキ、ジャム、はちみつ、ラムネ、サイダー等の予定です。

企業見学会（教員向け）

福島イノベ機構

生徒自身だけでなく、生徒の進路指導に携わる教職員にイノベ構想の現状と未来を支える企業を直接見ていただくことで、地域産業への理解促進、キャリア教育の充実を目指す企業見学会を開催しました。

日　時

令和８年８月１９日（水）

見学した企業

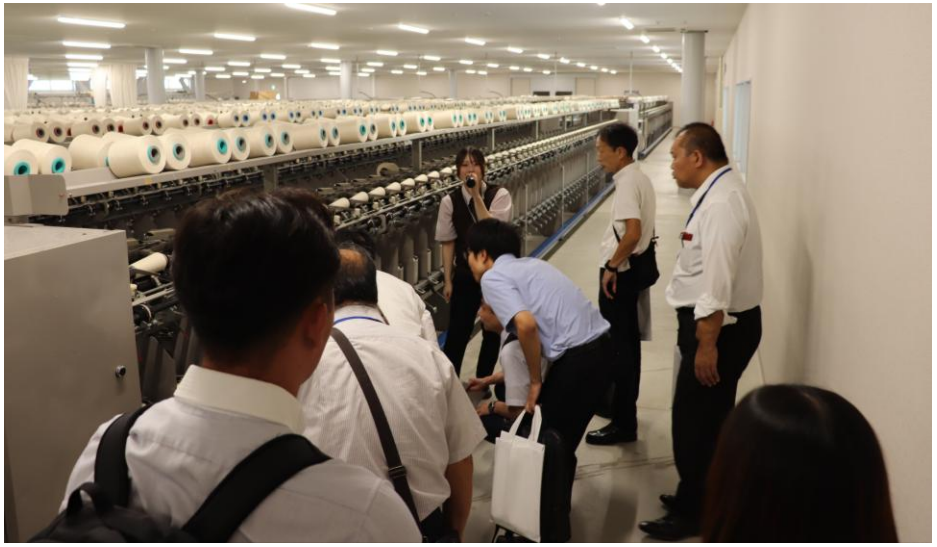
勿来IGCCパワー合同会社
浅野撚糸（株）双葉事業所

参加人数

小高産業技術高校、平工業高校、勿来工業高校の教職員　１８人

参加者の声

「詳しく説明していただき理解できた」
「企業の地域貢献への思いを知ることができた」
「浜通りの企業理解が進んだ」
「すべての教員に見てもらいたい」
「保護者にも地元企業への理解を促したい」
「生徒に地元にも素晴らしい企業があることを伝えたい」



【伝承館】県政150周年 県民の日特別企画「伝承館こども体験デー」

福島イノベ機構

複合災害を実験で学ぶ「伝承館こどもサイエンス隊」、学芸員と被災地をバスで巡る「特別フィールドワーク 空間線量を測る」などのイベントを実施。
そのほか、通常伝承館に展示している請戸小ピアノの一般開放や、伝承館と帰還困難区域を中継で繋ぐ実証企画も実施し、多数の来館者で賑わった。

日　時

令和８年８月２１日（金）～２２日（土）

場　所

東日本大震災・原子力災害伝承館

参加人数

伝承館こどもサイエンス隊：２０７名（２日間合計）
特別フィールドワーク：１５名

主　催

東日本大震災・原子力災害伝承館

「こどもサイエンス隊」では、地震や津波のメカニズムを学ぶ実験や放射線の飛跡が見える「霧箱」を使った解説などでたくさんの子どもたちに複合災害の原因など分かりやすく伝えた。伝承館と帰還困難区域をオンラインで結ぶ「生中継」では、15年経っても、震災と原発事故の被害の大きさを伝える建物が残っていることに驚く来館者の方もいた。
　特別フィールドワークの参加者は地震や津波でずれた沿岸部の道路や車内などで放射線量計を使って実際の線量を計測し、土やコンクリートなど線量計を近づける場所や、測る位置の高さで数値が異なることを実感していた。

【伝承館】福島ビエンナーレ　レセプション開催

現代アートの祭典「福島ビエンナーレ２０２６」のレセプションは令和８（２０２６）年８月２２日（土）、伝承館で行われました。

主　催

福島現代美術ビエンナーレ実行委員会、国立大学法人 福島大学 藝術による地域創造研究所
※イノベ機構など共催

現代アートの祭典「福島ビエンナーレ」は8月23日から9月26日まで双葉郡８町村を会場に開かれています。
開幕を前に伝承館でレセプションが開かれました。
福島大で音楽を学ぶ学生が、東日本大震災の津波で被災した請戸小学校のピアノを演奏し、双葉町の双葉北小学校と双葉南小学校の校歌を歌いました。

実行委員長・藝術監督の渡邊晃一氏（福島大学芸術による地域創造研究所 所長／人間発達文化学類 教授）があいさつしました。
参加アーティストらが自己紹介し、展示作品や展示場所について説明しました。

進出企業と地元企業でつながるビジネスフォーラムin白河

福島イノベ機構

例年実施している「参画促進セミナー」の名称を変更。進出企業だけでなく、地元企業からも協業の取組を発表いただくほか、関連する協議会等のブースも設置。登壇者や参加者との交流が深まるよう内容を進化させた。

日　時

令和８年８月２６日（水）14：00～16：30

場　所

白河市産業プラザ　人材育成センター（講堂）

参加人数

現地参加：４５名　オンライン：３８名

主　催

福島イノベーション・コースト構想推進機構

後　援

白河商工会議所、F-REI

登壇者からの発表、関係する協議会等からの取組紹介の後に、交流タイムが設けられ、活発に名刺交換や情報交換がなされていた。メディアはNHK、民報、民友が取材。

第15回環境放射能除染研究発表会（イベントへのブース出展）

福島イノベ機構

福島イノベ機構では、福島復興に向けて除染・中間貯蔵・減容化・再利用・環境修復・復興・廃炉および最終処分等に貢献するため、多様な分野からの研究調査発表・実施事例や実態報告・復興関連等の研究を発表する環境放射能除染研究発表会にブースを出展しました。ブースでは会場に訪れた多くの関係者に対し、福島イノベ構想に関する情報を発信しました。

開催日	イベント名
令和８年８月２６日(水)－２７日(木)	第15回環境放射能除染研究発表会
場　所	**主　催**
茨城県つくば市　産業技術総合研究所 中央事業所	(一社)環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会

南相馬市立小高中学校でインタビュー講座

福島イノベ機構

「福祉×地域×対話」をテーマに探究学習。今後、ラジオ公開放送形式で成果発表予定！
福祉施設での体験活動を通して福祉の役割や身近な課題への理解を深め、学びを発信します。

日　時	場　所
令和８年８月２７日（木）13:15～15:05	小高中学校
参加人数	**主　催**
３年生９名	南相馬市教育委員会 協力：福島イノベーション・コースト構想推進機構

南相馬市立小高中学校3年生の探究活動では、人との対話を通して学びを深め、その学びを周囲へ還元することを大切にしています。
また、二宮尊徳の報徳思想を取り入れ、相手を思いやる心を育みながら、自分にできる貢献について考えています。9月の体験活動を前に、福島大学教育推進機構高等教育企画室 特任講師の久保田彩乃先生をお招きし、インタビュー講座を実施しました。
質問の仕方や順序、相手との接し方、第一印象を左右する第一声などについて学びました。今後は地域の方々との対話を通して学びを深め、成果発表会で発信する予定です。

令和８年度「復興知」事業　キックオフミーティング

福島イノベ機構

日　時

令和8年8月28日(金) 13:00~17:20 [報告会]
令和8年8月29日(土)　9:30~12:00 [学生ワークショップ]

場　所

富岡町文化交流センター　学びの森

1日目に開催した報告会では、採択された大学等による**取組発表**や**ポスターセッション**を通じて、各大学等の今後の取組方針が発表されるとともに、大学等の関係者や参加者が対面で情報共有や意見交換を行いました。
翌日に開催した**学生ワークショップ**では、本事業に参加する学生同士が福島の課題や将来像について活発に意見を交わし、大学の垣根を越えた交流を深めました。学生たちが地域の課題や将来像について考え、意見を共有することで、新たなネットワークの構築や今後の活動の発展につながる機会となりました。

参加人数

- **351名**（大学関係者123名、地元高校生・教職員143名、一般参加者85名）
- **138名**（大学関係者104名、地元高校生・教職員2名、一般参加者32名）

主　催

（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構

▲ **ポスターセッション**では、多くの来場者が集まり、会場は大いににぎわいました

▲ **取組発表**では、採択された全ての大学等が取組方針を発表しました

▲ **学生ワークショップ**では、学生らが積極的に意見交換し、議論を行いました

▲ 意見交換後、それぞれの思いや考えを発表し合いました

（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構では、大学等の知見を活かし、大学等と地域の継続的な連携体制を構築するとともに、地域の持続的発展に寄与する教育研究機能を地域に根付かせ、将来のイノベ構想の実現や復興に貢献する人材の育成や定着、担い手の拡大を図るため、2026年度から新たに「大学等の「復興知」を活用した地域共創人材育成・定着推進事業」(「復興知」事業)を開始いたしました。
採択された24の大学等においては、放射線・リスコミ、農業、ロボット・ドローン、エネルギー等の様々な分野で教育研究活動が計画されており、今年度は新たな5か年の初年度となります。

地域魅力開発の担い手創出事業
大学連携型フィールドプログラム①（ロボット・ドローン分野_明星大・慶応大）

福島イノベ機構

イノベ構想の現在を知り地域住民の方とのワークショップを通じて「イノベ地域での学びの成果」をわかりやすく発信するためのプログラムの１回目を実施しました。（３回実施予定）
今回は「ロボット・ドローン分野」をテーマに、明星大学と慶応大学の先生・学生が、南相馬市やロボットテストフィールド、Zip Infrastructure社）の取組や地域の活動（浪江町・双葉町）に触れ、学びや対話の成果としてワークショップで住民の方と小冊子（ZINE）を制作しました。

日　時
令和8年8月29日（土）～31日（月）
参加者
明星大（国際コミュニケーション）・慶応大（科学コミュニケーション）関連の先生・学生　　計14名
場　所
南相馬市（市立図書館・Zippar福島試験線）、双葉町（駅周辺・双葉町産業交流センター等）、浪江町（陶吉郎窯）等
講師や対話先
委託先：一般社団法人双葉郡地域観光研究協会 ご対応者（交流促進部以外）： 南相馬市ロボット・次世代産業推進室 吉田室長他、福島ロボットテストフィールド 連携課　田邊課長、Zip Infrastrucutre 須知CEO、他双葉町・浪江町の皆様

Zip社 須知CEOのレクチャー

双葉まちあるき

ZINEづくりワークショップ

Zippar 試験線見学

【伝承館】令和８年度 第一回伝承館語り部研修会

福島イノベ機構

館内語り部のスキルアップと語り部同士の交流を目的として、語り部研修会を開催した（年に２回開催）。前半は、ワークショップ形式による語り部同士の意見交換を実施した。
後半は、大川伝承の会の佐藤敏郎様を講師に招いて特別講話を実施した。
実施後のアンケート結果における満足度は非常に高く、今後も継続していく。

日　時

令和８年８月３０日（日）

場　所

東日本大震災・原子力災害伝承館

参加人数

合計３３名（館内語り部１８名、スタッフ９名　ほか）

主　催

東日本大震災・原子力災害伝承館

【アンケートの声】
他の語り部さんの問題点を共有できてよかった。今回のように、他地区の語り部をご招待して、話を聞くのは、大変勉強になりました。
貴重な大川小のお話をありがとうございました。津波災害の状況を知ることができ、大変有意義な講話だった。機会があれば是非訪問してみたいと思う。

【伝承館】箭内道彦さん特別講演

現代アートの祭典「福島ビエンナーレ」の一環で、東京藝術大学教授、福島県クリエイティブディレクターの箭内さんが「復興とともに歩むクリエイティブ」と題して特別講演された。

日　時

令和８年８月３０日（日）

場　所

東日本大震災・原子力災害伝承館　プロローグシアター

主　催

福島現代美術ビエンナーレ実行委員会
国立大学法人 福島大学 藝術による地域創造研究所
共催：福島イノベ機構

当館で毎日上映しているプロローグシアターの映像は、福島県郡山市出身の箭内さんが同郷の西田敏行さんと一緒に作られた。
講演で箭内さんは「自分のクリエイティブ業務の中で一番難しかった仕事です」と明かした。
震災と原発事故後、「福島の誤解を理解に変える」ために手掛けた多数の仕事や、県民を元気づけた音楽ライブなどの裏話や、企画意図について語った。